

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

分担研究課題：医師養成全体の動向を踏まえた到達目標のあり方に関する研究

研究分担者 奈良 信雄 東京医科歯科大学 医歯学教育システム研究センター 教授

研究要旨： 臨床研修到達目標、医師国家試験出題基準、医学教育モデル・コア・カリキュラムを比較研究した。臨床研修の到達目標の各事項は、全国医学部に導入されている医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づいて教育され、医師国家試験でも出題されることが確認できた。卒前から卒後の臨床研修には連続性があり、各課程でのレベルに応じた教育を段階的に繰り返すことで医師養成の目的が達成されている。

A. 研究目的

医師臨床研修部会報告書における『到達目標や評価手法については、どのような医師を育成すべきかを踏まえた上で、医師養成全体の動向の中で卒前教育のモデル・コアカリキュラム、医師国家試験、新たな専門医の仕組みにおける各領域目標等と連続性も考慮しつつ見直す。』等の指摘を踏まえ、今後、卒前教育についての大学間標準化や新たな専門医仕組み開始など医師養成全体の状況に変化が見込まれることから、卒前教育、医師国家試験、各専門領域到達目標等との比較・連続性の観点から、臨床研修到達目標在り方について検討を較・連続性の観点から、臨床研修到達目標在り方について検討を行う。

B. 研究方法

臨床研修到達目標、医師国家試験出題基準、医学教育モデル・コア・カリキュラムを比較検討し、卒前から卒後の医師養成について連続性を解析する。

（倫理面への配慮）

医師養成課程の検討を行う研究で、倫理に抵触することはない。

C. 研究結果

臨床研修到達目標の各項目別に医師国家試験出題基準、医学教育モデル・コア・カリキュラムの対応表を作成し、比較研究した。（資料：臨床研修、コアカリ、国家試験対比表）その結果、臨床研修到達目標のほとんどが全国に医学部に導入されている医学教育モデル・コア・コアカリキュラムに規定されており、卒前教育で学習されていることが確認された。医師国家試験出題基準にも掲げられ、医師として具有すべき要件であることも確認された。

D. 考察

臨床研修で研修医が修得すべき事項のほとんどは卒前の医学部教育で学習しており、医師国家試験でも出題されることが確認された。しかし、卒前教育では医学生が知識として理解しておけば良いものがほとんどで、実践能力としてまでは要求されていない。臨床研修医では指導医の下で研修医が教育を受けるが、臨床研修終了時には、医師として単独で実践できることが目標である。この意味で、卒前教育で理解し、医師国家試験で評価を受けた後で、臨床研修を行うという医師養成の連続性が実証された。

E. 結論

医学部教育、医師国家試験による評価、臨床研修到達目標には連続性があり、それぞれの段階で要求されるレベルの深さに差がある。連続した教育により、医師養成が達成できる。

F. 研究発表

1. 論文発表

研究途中につき、成果をまだ発表していない。

2. 学会発表

研究途中につき、成果をまだ発表していない。